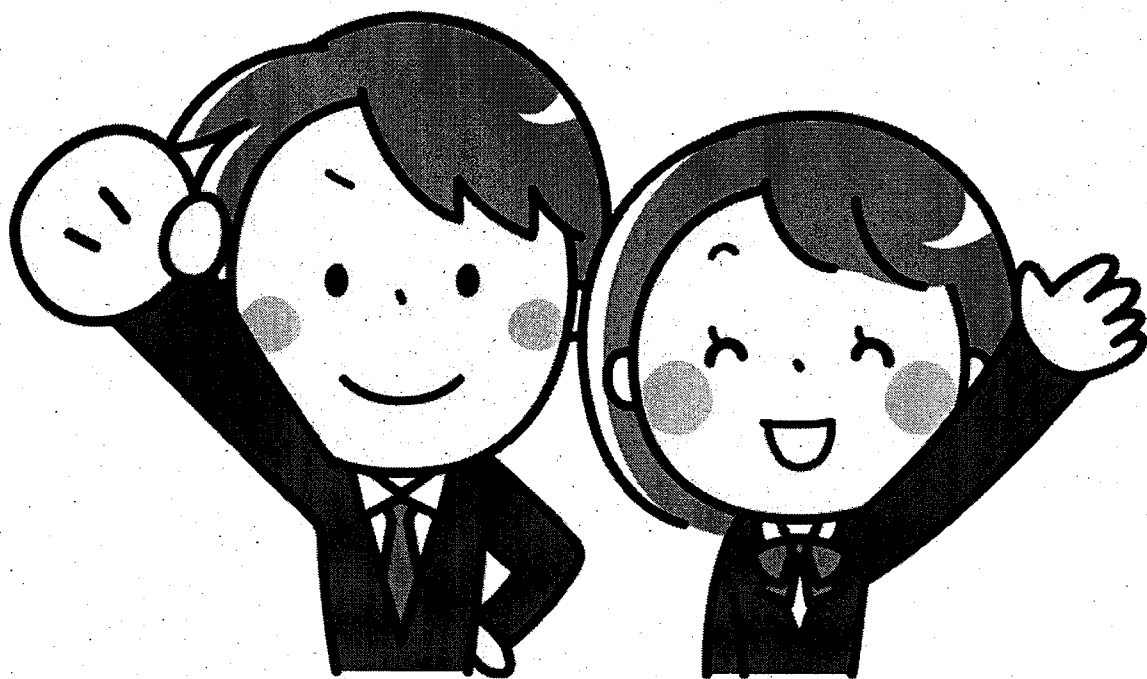


令和3年度

地域づくり活動

応援事業事例集

（高校生枠）



こころ豊かな美しい西播磨推進会議

兵庫県西播磨県民局

目 次

(事業名)	(実施団体)	
1 生物多様性 龍高プラン 地域の生物多様性の保全	兵庫県立龍野高等学校	…1 頁
2 太子ふるさと育成事業	兵庫県立太子高等学校育成事業実行委員会	…7 頁
3 相高地域貢献・魅力発信事業	兵庫県立相生高等学校	…12 頁
4 赤穂高校ふれあい活動	兵庫県立赤穂高等学校 調理部	…14 頁
5 上郡町コミュニティデザインプロジェクト	上郡町コミュニティデザインプロジェクト 【兵庫県立上郡高等学校】	…17 頁
6 佐用町ファッションプロジェクト	兵庫県立佐用高等学校家政科	…20 頁
7 高校生が考える「バリアのある人のための防災」	兵庫県立山崎高等学校	…24 頁
8 伊和高生地域貢献・交流事業	兵庫県立伊和高等学校	…26 頁
9 ちくさ地域力UPプロジェクト	兵庫県立千種高等学校	…29 頁
10 地域との連携・協働による伝統文化の継承と地場産業および地域の活性化	龍北総合D科後援会 【兵庫県立龍野北高等学校(全日制)】	…31 頁
11 高校生の店 龍北工房	高校生の店 龍北工房 【兵庫県立龍野北高等学校(定時制)】	…35 頁
12 地域をつなぐ相産定時制	兵庫県立相産産業高等学校(定時制)	…37 頁
13 播特発！「たつのコミュニティ」の創生	兵庫県立播磨特別支援学校	…40 頁
14 生徒の自己有用感を高めるために	兵庫県立赤穂特別支援学校	…42 頁
15 STEAM×SDGsで地域貢献	兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部	…45 頁



事業名：生物多様性龍高プラン 地域の生物多様性の保全

団体名：< 兵庫県立龍野高等学校 >

所在：兵庫県たつの市龍野町日山 554

代表：前田 達也

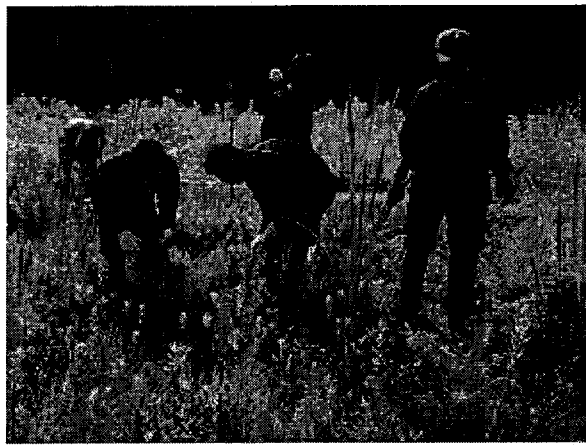
目的	<p>【地域の現状】</p> <p>地域の生物多様性は急激に失われている。特に、シカの増殖により林床の植物は壊滅的な被害を受けている。また、ため池やその周辺の植物も、移入生物やため池管理方法の変化などによって多くの動植物が絶滅している。</p> <p>【地域の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の生きもの達を守るために、十分な調査がなされていない。② 稀少植物などの生育地が知られていても、十分に保護されているわけではない。③ 稀少な生きものが身近にいても、地域の住民は知らないままになっている。④ 子どもの遊びは電子ゲームが主流となり、自然科学に対して関心が減退している。 <p>【解決方法】</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の稀少な植物群落などの継続的な観察と調査② 調査の結果に基づいて、生息地の保全活動③ 県民局や市町村の環境担当課、地域の自然保護団体などと連携④ 稀少植物の栽培・増殖技術の開発と学校などでの生息域外保全⑤ 地域への自然環境に関する啓発活動⑥ 子どもたちに、自然科学への興味関心を育むための実験・観察の機会を設ける
内容	<ul style="list-style-type: none">① 地域の稀少な植物群落などの継続的な観察と調査② 絶滅の危機が迫っている場合は、生物多様性地域連携促進法に基づいて、県民局や市町村の環境担当課、地域の自治会などと連携をとり、保全活動を行う。③ 学校での生息域外保全④ 稀少植物の栽培・増殖技術の開発⑤ 科学の祭典などで、生物多様性について啓発活動⑥ 地域の自然保護団体との協働
地域	たつの市を中心とした、播磨地域

事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・生息域外保全により、ムラサキ（新宮町産）など地域の絶滅危惧種の絶滅を防止できる。 ・地域の小学生に、地域の環境問題などについて知る機会をつくることができる。 ・絶滅危惧植物の生育する自治会に対し、自生地保全の対策など助言することができる。 ・絶滅危惧植物の栽培・増殖方法について、小学校の環境教育教材として活用する場合に助言できる。 <p>工夫した点（どのような地域資源を活用するか等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みとして、今年は水利権の消失したため池（太子町総合公園柳池）の活用に取り組む。地域の絶滅危惧種を生息域外保全しながら、地域の小学校での環境教育に活用できるように工夫する。 	
事業経過	<p>新規内容</p> <p>柳池での活動</p> <p>4月～11月</p> <p>5月～7月</p> <p>7月</p> <p>8月～10月</p> <p>11月～3月</p> <p>調査結果</p>	<p>「柳池を活用した、地域の絶滅危惧種の生息域外保全」</p> <p>柳池周辺の植物調査</p> <p>移植苗の生産</p> <p>「太子町総合公園柳池」で移植場所の整地 播磨地方の絶滅危惧植物の移植</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フジバカマ 秋の七種 兵庫県 Aランク 姫路市産 ・ノジギク 兵庫県 Cランク 姫路市産 兵庫県花 ・オキナグサ 兵庫県 Aランク 赤穂市産 ・ヒシモドキ 兵庫県 Aランク たつの市産 ・ミズトラノオ 兵庫県 Bランク 加西市産 ・マルバオモダカ 兵庫県 Aランク 夢前町産 ・ユウスゲ 兵庫県 Cランク 佐用町産 ・チョウジソウ 兵庫県 Aランク 上郡町産 <p>食虫植物の移植</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウカイコモウセンゴケ たつの市産 ・モウセンゴケ 太子町産 ・ミミカキグサ 太子町産 ・ムラサキミミカキグサ 兵庫県 Cランク 太子町産 ・ホザキノミミカキグサ 太子町産 <p>セイタカアワダチソウなど外来植物の除草等の管理</p> <p>研究発表（京都大学課題研究合同発表会・甲南大学リサーチフェスタ・人と自然の博物館共生のひろば・課題研究Ⅱ研究発表会など）</p> <p>植物調査の結果、柳池周辺地域には 100 種以上の植物の生育が確認された。50%近くが外来植物を占めた。注目すべき植物として、タヌキモ類が見つかった。今後、越冬芽の確認などにより種類の同定をしたい。 今後注意すべき生物として、特定外来種（オオカワヂシャ・アライグマ・ウシガエル）を確認。また、ペットのアカミミガメ、ヒメダカなどの放流も確認している。 公園に隣接するため池なので、人為的な放流が続く可能性があり、看板などの注意掲示が必要と考える。 また、アメリカオニアザミの繁殖を確認している。葉に鋭いトゲがあり、公園にきた幼児の眼を傷つける危険性があり、早急な除草を行い拡散を防止する必要がある。</p>

<p>移植した絶滅危惧種の結果</p>	<p>調査の結果、特に保護すべき植物が生育していないので、7月に絶滅危惧種を移植した。移植後の結果は以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フジバカマ 9鉢移植。枯死なし。10月に開花。良好。 ・ノジギク 9鉢移植。枯死なし。11月開花。 ・オキナグサ 9鉢移植。枯死なし。やや不調。 ・ヒシモドキ 挿し木を含め20本前後移植。結実あり、生育良好。 ・ミズトラノオ 9鉢移植。30本程度挿し木。水没により、不調。 ・マルバオモダカ 9鉢移植。水没により、不調。 ・ユウスゲ 5鉢移植。良好。 ・チョウジソウ 2株移植。法面は良好。池内水没不調。 <p>食虫植物の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウカイコモウセンゴケ 寒さにより葉の痛みが大きい。 ・モウセンゴケ 開花結実し実生が生育するか要観察。 ・ミミカキグサ 開花結実。良好。 ・ムラサキミミカキグサ 開花していたが、現状不明。 ・ホザキノミミカキグサ 開花結実。良好。 <p>※ すべての種類については、今後も継続的な観察が必要。</p>
<p>保全・培養技術の開発 成果の発表 4月～7月 8月～9月 11月～2月</p>	<p>絶滅危惧種サギソウの保全</p> <p>サギソウの共生菌の発見方法の開発 サギソウの共生菌の培養技術の開発 研究発表 兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門・サイエンスフェア in 兵庫・人と自然の博物館共生のひろば</p>
<p>啓発活動と科学教育</p>	<p>昨年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「科学の祭典」や「科学の屋台村」など科学イベントは中止となった。そのため小学生や保護者に対しての、生物多様性の啓発活動や、自然への興味を喚起するための「食虫植物」の展示・実験はできなかった。</p> <p>ただし、来年度以降に科学イベントの再開時に備えて、展示植物の植え替えなどの維持管理は、例年通りに行っている。</p>
<p>従来の生息域外保全</p>	<p>野生絶滅した新宮町産ムラサキの苗を生産し、柳池などに移植を予定していたが、今年は発芽率が悪く移植した苗も根腐が多発し不調であった。</p> <p>その他、ヒシモドキなどは例年と変わりなく良好。</p>
<p>生息地の調査保全活動</p>	<p>野外調査の結果、兵庫県では唯一自生していたヒシモドキの生育地では、個体数が10株以下と絶滅寸前である。(兵庫県版RDB2020でも同様の報告がある)生物多様性地域連携促進法を活用して、行政と連携した保全活動を提案したが現状に進展はない。</p> <p>太子町柳池に移植したヒシモドキは自生地以上に良好な生育であった。</p> <p>絶滅危惧種ササユリ、ギンランの生育を県立大理学部構内で確認し、理学部施設課の許可を受けて、シカの食害を防止する簡易柵を設置した。</p> <p>たつの市神岡町のサギソウ群落について例年通り、除草・人工授粉を実施。</p>

(新規)太子町総合公園柳池を活用した地域の絶滅危惧種の生息域外保全

開発や放棄水田の増加により、ため池やその周辺に生育していた生物たちも急速に減少している。今回、太子町の協力のもと水利権の消失した柳池を活用し、生物多様性の保全の活用方法と、将来的に自然観察の場の創造を目指して活動を開始した。



セイタカアワダチソウの駆除 4～10月



ヒシの駆除 7月



柳池周辺の植物調査 4～10月



移植予定地の植生調査 6～7月



ため池法面の整地 7月



ため池周辺部にミズトラノオを挿し木 7月



ノジギク・フジバカマの挿し木 5月



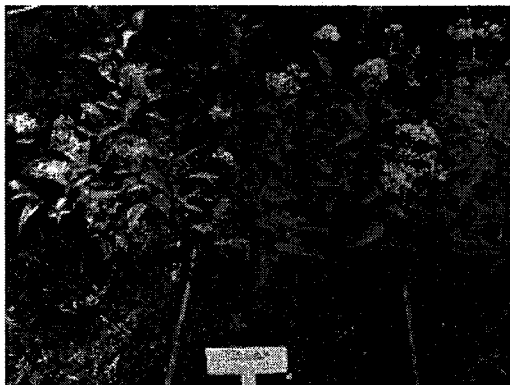
発根苗の鉢上げ 6月



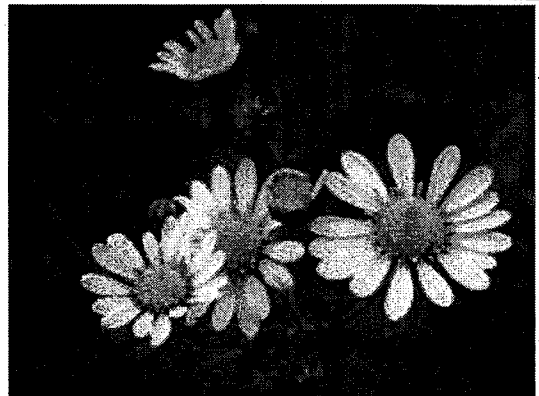
シカよけ、コイ除けのネットを設置 7月



播磨地方の絶滅危惧種の移植 7月



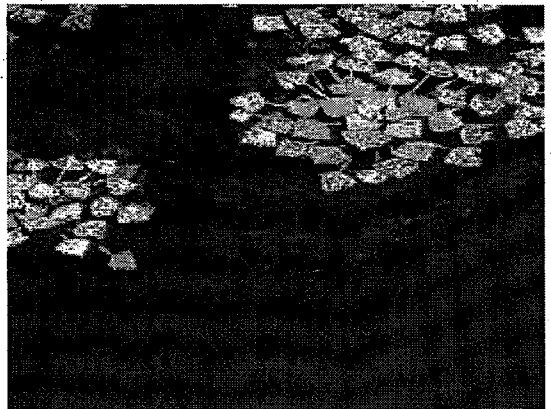
フジバカマ (姫路市産) の開花 10月



ノジギク (姫路市産) の開花 11月


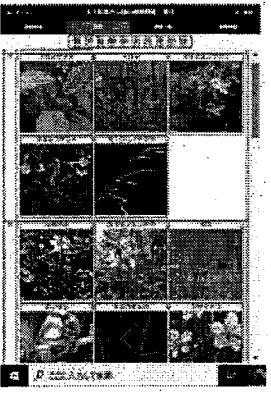


ヒシモドキ (たつの市産) 自生地より良好



メダカの繁殖 (バス・ギルの侵入は未確認)

協働の相手方	太子町役場まちづくり課（総合公園柳池における、地域の絶滅危惧種の生息域外保全） 日本触媒姫路製造所・県土木整備部まちづくり局（ノジギクの提供） 県立大附属高校・香寺高校・新宮小学校（ヒシモドキの生息域外保全など） たつの・赤とんぼを増やそう会（休耕田の使用協力） 兵庫県立大学理学部 施設課（ササユリ・ギンランの保全） 兵庫県立人と自然の博物館（指導・助言）
--------	--

今後の展望	<p>新規事業 太子町総合公園柳池の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物調査の結果 特定外来種としてウシガエル・アライグマ（足跡）・オオカワヂシャを確認した。要注意種は多数確認。特にアメリカオニアザミは早急な駆除が必要である。現在まだ個体数が限られており、公園内から完全駆除は可能である。開花数が多く種子を多数つけ風散布により急速に分布が拡大すると予想される。花は美しいが葉に非常にすどいトゲがある。草丈と幼児の顔の位置が近く、トゲにより眼を傷つける危険性がある。 ・移植地内に、シカの侵入が1回あったが移植した植物の食害はあまりなかった。しかし、ダニやヤマビルなどの拡散につながり、児童・生徒が自然観察時に噛まれる可能性がある。 ・ミズトラノオやマルバオモダカは水没した時に、日照不足による不調だけでなくコイに食害された可能性を否定できない。このコイは外来種で既にため池で繁殖している。狭いため池に大型のコイの数が増えると水草に影響がでる可能性がある ・灌水は一度もせずに、移植植物が活着したのは、事前の植生調査をもとにした土壌湿度の推定の効果があったと考える。フジバカマやノジギクは移植数を増やしたい。 ・セイタカアワダチソウなど外来植物の除草は今後も必要。 ・メダカは、大量に増殖している。将来的に教材としての活用を考えるのであれば、ブラックバス・ブルーギルの持ち込みを禁止する看板の設置など必要と考える。 ・体験学習施設に隣接しており、近隣の小学校の環境教育の場として有効と考える。教材の開発が望まれる。太子町内の小学校の先生方との連携が必要と考える。 ・植物調査中に撮影した写真は、明石高校岩崎善行先生が開発した「図鑑アプリ」を使用して一般公開をしている。今後は解説などを充実させ、自然観察ガイドとして活用できるようにしたい。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>図鑑 QR コード</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スマホ画面</p> </div> </div> <p>継続事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サギソウなどの絶滅危惧種の保全活動、調査活動は今後も継続する ・生物多様性に関する啓発活動についても、今後新たな連携先を探して活動する。 ・児童・生徒の自然や科学に興味関心を育む活動についてもイベント再開時に備えて、食虫植物や絶滅危惧種の植え替えなど、維持管理を継続する。
-------	--

問合せ先	兵庫県立龍野高等学校 電話 0791-62-0886 Fax. 0791-62-0493 「生物多様性龍高プラン」 担当教員 田村 統
------	---

事業名： 太子ふるさと育成事業

団体名： < 兵庫県立太子高等学校育成事業実行委員会 >

所在：兵庫県揖保郡太子町糸井 19

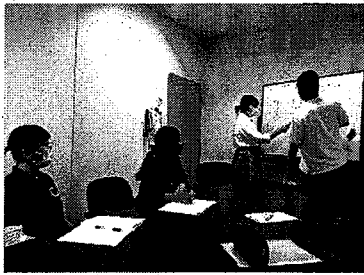
代表：小田 昌史

目的	<p>〔地域の現状〕</p> <ul style="list-style-type: none">・ 少子高齢化や核家族化が進む中で世代間や居住地での絆が薄くなっている。・ 地域の財産の斑鳩寺を中心としたつながりが希薄になっている。・ 地域の活性化に欠ける面があり、地域の資源や人材を活かせていない。 <p>〔地域の課題〕</p> <p>地域住民が安心・安全で豊かなまちづくりを行うため、地域コミュニティの輪を広げ、ふるさと太子を活性化させるとともに地域を支える人材づくりをする必要がある。</p> <p>〔解決方法〕</p> <p>安心・安全で豊かなまちづくりのため、世代を超えた地域コミュニティの場を多様に設置し地域のきずなを育てる。地域の住民や団体が協力して、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行う。高校生が人と人をつなぐ役割を担うことにより、「ふるさとを愛する心」の醸成を図り、「地域とともにある学校」づくりを推進する。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none">1 「小学生教室」 コロナ感染症の蔓延防止の観点から中止。2 「国際交流活動」 コロナ感染症の蔓延防止の観点からホームステイの受け入れは中止。 オーストラリア・台湾・韓国とオンラインや手紙等で交流実施。3 「地域貢献交流活動」 Jコーラス部が地域の方々を招き、地域での活動発表と交流との場する発表会を予定していたが、コロナ感染症の蔓延防止の観点から中止。4 「聖徳太子1400年プロジェクト」 太子町や聖徳太子1400年プロジェクト等との協働で太子町の斑鳩寺を中心にした太子町のまちづくりの活性化に取り組んだ。 ① 「2022 聖徳太子1400年」と生徒1人1人のメッセージ入りひまわりの種の配布 ② 太子町町制70周年人文字ドローン撮影に書道パフォーマンス、コーラス、人文字、スタッフとして協力。 「コロナに負けない！地域応援活動」 生徒会が中心となり、太子町の福祉施設との協働で「ゆめの花プロジェクト」を企画・実施した。 ① 太子町内の保・幼・小・中・高校の児童生徒のゆめを書いた花や葉をつけた大きなゆめの木を作成し展示した。 ② 休耕田を整備し、コスモス畑を作った。 ③ 太子町内の町地域の方々を招待し、「コスモスまつり」を実施した。 ④ 太子町や近隣地区の方に呼びかけ、「みんなでクリスマス」を実施した。
地域	・ 西播磨地区 国際交流（オーストラリア・韓国・台湾）

事業の効果	<p>〔事業の効果〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 太子町と協働することで、学校と地域との連携がさらに深められ、連携が強化される。 2 参加した高校生自身に、地域とそこに住む人々に対する愛着が生まれ、地域や行政への関心度が向上する。 3 学校が主体となって事業を推進することで、学校に対する理解や信頼が進む。 4 ボランティア活動に参加する際の基本的な心構えを身につけることができる。 5 太子町の施設を利用することで、活動を知ってもらう機会が広がり、地域の方々との交流の幅を広めることができる。 6 授業で学んだことを活かすことで、生徒の知識の習熟度を高め、生きた学力を育成させることができる。 7 高校生が参加することにより、「人にやさしく」「個性的で活力のある」ふるさとづくりができる。 8 高校生がまちづくり参加することにより、若者の視点・センスを活かした情報発信が期待される。 9 多様な大人や友人との関わりの中で、自己形成をすることが可能になる。 10 困難な状況下であっても他人を思いやる気持ちを持って、自分にできることを考え前向きに生きる力が育まれた。 11. 太子町内の全児童生徒に参加してもらうことで、より地域に貢献し、地域を盛り上げ、地域をつなぐ一端を担うことができた。 	
事業経過	<p>通年</p> <p>5月8日～</p> <p>5月21日</p> <p>6月25日 7月29日</p> <p>8月11日</p> <p>10月1日</p> <p>10月18日～</p> <p>10月23日</p> <p>12月4日</p> <p>12月13日</p> <p>12月25日</p> <p>1月20日 ～2月22日</p>	<p>県立こどもの館でのふれあい体験ボランティア</p> <p>「こどもマスク届け隊」への協力</p> <p>ぼうじい来校</p> <p>あすかの家の職員さんとの企画会議</p> <p>コスモス畑種まき</p> <p>コスモス畑草引き</p> <p>おうち DE 留学</p> <p>コスモスまつり</p> <p>町制 70 周年人文字ドローン撮影</p> <p>国際交流 at classroom</p> <p>みんなでクリスマス</p> <p>太子町庁舎ロビーにてゆめの木の展示</p>



5.21 ぼうじい来校



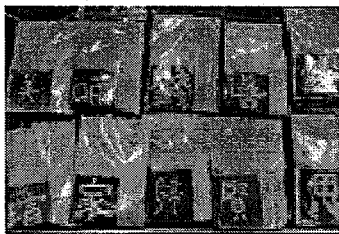
6.25 7.29 あすかの家の職員さんとの企画会議



8.11 コスモス畑種まき



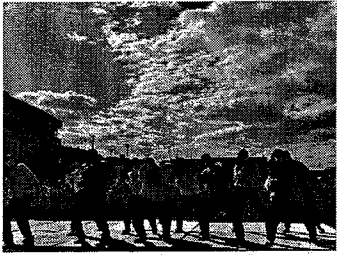
10.1 コスモス畑草引き



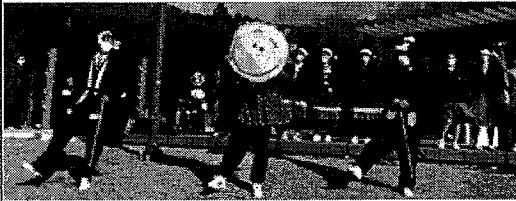
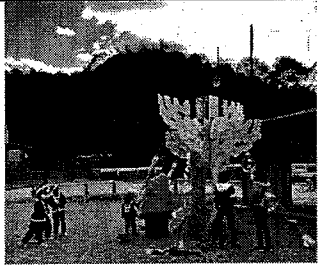
10.13 おうちDE留学

12.13 国際交流 at classroom

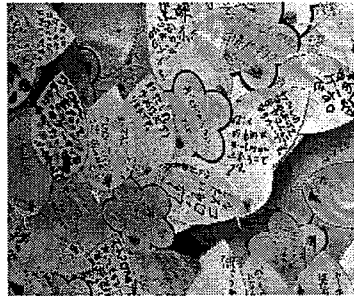
12.4 町制70周年
人文字ドローン撮影



10.23 コスモスまつり



12.25 みんなでクリスマス



メッセージ付き
ひまわりの種

みんなのゆめの花・葉

1.20~2.22
ゆめの木の展示

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・太子町 ・斑鳩寺 ・豊原高級中学校（台湾） ・兵庫県立こどもの館 ・町与自治会 ・聖徳太子1400年プロジェクト ・社会福祉法人あすか会 ・糸井自治会
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> 1 従前のものは今年度の反省を活かし、より中身の濃い活動に展開させていく。 2 地域各所と協働・連携した企画・運営の活動を展開させることにより、地域で生きる大切さや地域の一員であることを強く認識させていく。 3 活動を展開する地域をさらに拡大し、多様化する。 4 太子町との協働や継続した活動を行うことにより、まちづくりの活性化がさらに期待される。 5 地域の大人と協働することにより、ふるさと太子に「こころをよせる」「そこにかかわる」で、今までの「ふるさと」に対する愛着、帰属意識が一層高まるとともに、これから自分が生きていく新しい場所を「ふるさと」と思い大切に作る気持ちを育む。 6 従前の取り組みにより得た人とのつながりを充実させることにより、共に生きる共生の心を育て、「地域とともにある学校」づくりを推進する。 7 困難な状況下であっても他人を思いやる気持ちを持って、自分にできることを考え、高校生の良さを生かして地域に貢献していく心と態度をより育成していく。 8 オンラインを活かして、ふるさとの魅力や情報をより発信していく。 9 地域の人材を活かして、さらに人と人をつなぐ心のこもった活動を展開する。

問合先	<p>住 所：〒671-1532 兵庫県揖保郡太子町糸井 19 兵庫県立太子高等学校</p> <p>氏 名：貢献交流部長 澤田 紀世美</p> <p>TEL：079-277-0123 FAX：079-277-0124</p> <p>メ-ル：piano@hyogo-c.ed.jp</p>
-----	--

事業名： 相高地域貢献・魅力発信事業

団体名： < 兵庫県立相生高等学校 >

所在：相生市山手1丁目722-10

代表：校長 栗林 秀忠

目的	<p>本校のある相生市は、かつての花形であった造船業の栄えた港町である。造船業の後退により人口は激減し、現在も人口減少の歯止めをかけるために、様々な事業を展開している。歴史に目を向けると、播磨第二の大荘園「矢野荘」があり、荘園がまるまるそのまま地方公共団体になった数少ない例の一つである。京都の有名な東寺の所有した荘園でもあり、荘園研究の一級資料である「東寺百合文書」が残存し、史料も豊富に残っている。そのため、相生の歴史を学ぶことにより、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさと相生の活性化につなげていきたい。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none">・地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのふれあいや交流等、地域貢献を図る。・相生歴史巡検を実施し、ふるさとの歴史を学び、魅力を再発見することにより、ふるさと相生の歴史的魅力をクリアファイルや学校ホームページでの歴史巡検資料の作成により、市民やふるさと相生の活性化につなげていく。・学校行事（文化祭、体育大会、公開授業など）を地域に情報発信することで、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進し、学校文化の広がりや地域の教育文化の拠点としての役割を担う協働実践を図る。	
地域	相生市	
事業の効果	<ul style="list-style-type: none">・本校の挨拶運動が、相生市の表彰を受けたり、相生のミニコミ誌に掲載されたり、地道に地元と連携して活動が続けられている。これを継続することにより、地元で愛される学校になることが期待できる。・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）との連携で、ふるさと相生の歴史を多面的に学ぶことができる。ふるさと相生の魅力を探求し、クリアファイルや学校ホームページの歴史巡検資料を作成して地域の人々に配布し、地域とのつながりの深化が期待できる。・単年度に終わらず、継続的に活動を実施し、相生市の観光資源へとつなげる懸け橋としていきたい。	
事業経過	毎月1回 5・11・2月 9月 10月～1月	さわやか挨拶運動：4・5・6月は緊急事態宣言のため中止 通学路清掃：一学期(5月)は緊急事態宣言のため中止 相生歴史巡検 クリアファイル・学校ホームページ歴史巡検資料作成



7月21日(水) さわやか挨拶運動



11月17日(水) 通学路清掃



9月25日(土) 塚森古墳の南側から



那波野古墳横穴式石室入り口前

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・山手1丁目自治会 ・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前（南北）で実施する「さわやか挨拶運動」や「通学路清掃」を実施・継続することで、自治会や地元とも連携を深め、地域に親しまれ愛される学校になっていく。 ・ふるさと相生の歴史的魅力を再発見するために、相生歴史巡検のクリアファイルを作製して挨拶運動で配布を行う。また、学校ホームページの歴史巡検資料で魅力をアピールし、ふるさと相生の魅力発信に貢献する。
問合せ先	<p>相生高等学校 中村 吉宏 Tel (0791) 23-0800 Fax (0791) 23-0801</p>

事業名： 赤穂高校ふれあい活動

団体名： < 兵庫県立赤穂高等学校 >

所在：赤穂市海浜町 139

代表：校長 行本 健一

目的	<p>[地域の現状]</p> <p>少子高齢化が進んでおり都会に出ていく若者が多い。若者が地域の良さや、地域に目を向ける機会が減少している。また異世代との交流活動が少ない。特に高校生は地域と触れ合う活動が少なくなっている。他地域から通学している生徒が赤穂について考えることが少ない。</p> <p>[地域の課題]</p> <p>若者に対して地域の魅力をアピールする。赤穂市の地域資源を発見していく人材の育成、地域の活性化。他世代との交流活動を活発化する。</p> <p>[解決方法]</p> <p>地域の他世代の人とのふれあい活動を増やし、地域について理解し愛着を持てる活動を行う。赤穂市について再認識、自分たちが普段何気なく見過ごしていたことを見つけて高校生生活を楽しむ。次の子育て世代として児童観を育成する。</p>
内容	<p>(1) 赤穂の特産物を利用した新たなお菓子の製品化を目指し、お菓子作りを行った。</p> <p>(2) あこうこども食堂・普門寺こども食堂でお菓子製作のボランティア活動を行った。</p> <p>(3) 教科「子どもの発達と保育」選択生徒が製作したおもちゃを赤穂東児童館にプレゼントした。</p> <p>(4) 赤穂市保健センター・いずみ会の方に1人暮らしの料理について学んだ。</p> <p>(5) 教科「生活と福祉」選択生徒が製作した手芸品をデイサービスセンターにプレゼントした。</p> <p>(6) あこうこども食堂・普門寺こども食堂の代表者の方や、地域の酪農家の方との交流ならびに打合せ。</p>
地域	赤穂市
事業の効果	<p>赤穂市のこども食堂のボランティアを通して、運営者の方とのふれあうことによりボランティアについて身近に感じる事ができた。また、若者世代に望まれることなどを聞き、自分の将来や赤穂について深く知るきっかけとなった。</p> <p>赤穂保健センター・いずみ会の方との「ひとりでもクッキング」の料理講習会を行い、異世代の方と交流することにより、コミュニケーション能力が高まった。</p>

事業経過	5～3月	子ども食堂お菓子作り
	7～12月	赤穂東児童館へのプレゼント作り デイサービスセンターしおさいセンターへのプレゼント作り
	12月	赤穂東児童館にてプレゼントの配布
	1月	デイサービスセンターしおさいセンターにてテディベアのプレゼント。
	1月	赤穂保健センター・いずみ会との料理交流



8月27日 あこうこども食堂で打合せ



12月18日しおさいセンター



1月17日 ひとりでもクッキング



1月21日 赤穂東児童館

協働の相手方	あこうこども食堂 普門寺こども食堂 デイサービスセンターしおさいセンター 赤穂市保健センター 赤穂東児童館
--------	---

<p>今 後 の 展 望</p>	<p>今年度も昨年に続き、コロナウイルス感染症のため、交流や今まで行っていた行事が中止になり、思うような活動ができなかった。今後も、赤穂東児童館・赤穂市内の保育所との交流を定期的に行っていき、子どもたちや親御さんとのかかわりを通して、生徒たちが地域貢献や、地域の方に学ぶ姿勢をもてるようにしていきたい。</p> <p>お菓子の販売はすべて中止となったが、次年度は赤穂の特産品を使用したお菓子の製作を調理部員全員が作れるように試作を重ねたい。また、赤穂の食文化について学び、伝統食の伝承や特産物の斬新な利用についてさらに研究していきたい。</p>
----------------------------------	--

<p>問 合 先</p>	<p>〒678-0225 赤穂市海浜町 139 番地 兵庫県立赤穂高等学校 調理部顧問 山本 山本伊都美 TEL 0791-43-2151 Fax 0791-43-2153</p>
----------------------	--

事業名：上郡町コミュニティデザインプロジェクト

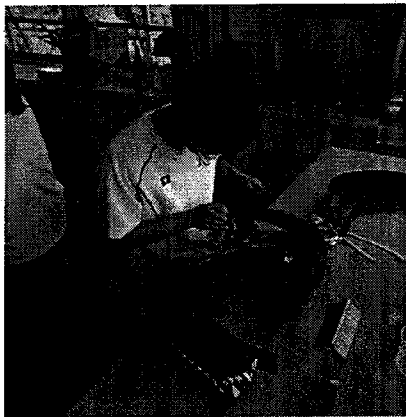
団体名：< 上郡町コミュニティデザインプロジェクト >

所在：兵庫県赤穂郡上郡町大持 207-1

代表：塚本 師仁

	<p>[地域の現状]</p> <ol style="list-style-type: none">1 少子高齢化が進む典型的な町で、商業活動も芳しくなく、青年者層の流出も多い。2 町の主産業である農業や商業が低迷している。3 自然・人などの資源が生かされていない。 <p>[地域の課題]</p> <p>目</p> <ol style="list-style-type: none">1 強みである豊かな自然環境（川・土地・森林）の有効活用（関連産業の創設）を行う。2 人的資源としての高齢者が活躍できる施策を企画実践する。3 歴史遺産の活用や特産物、及びそれらを用いた商品開発と販売により地域PRを行う。4 寂れたままになっている上郡旧市街地の有効活用を行う。 <p>[解決方法]</p> <ol style="list-style-type: none">1 町の活性化を、コミュニティデザインの考え方で企画し、実践していく。2 地元高校生等若者層が積極的に町の行政に活性化提言をする。その際、行政の施策とタイアップし、協力体制を構築しその実践を試みる。
内 容	<p>[従前からの活動]</p> <ol style="list-style-type: none">1 地域貢献として町のイベント（駅前イルミネーション）に、企画段階から参画した。 (1) 駅前イルミネーション（ボランティア・PR活動）2 ドローンなどを使い、学校紹介動画を作成 <p>[新たな取組]</p> <ol style="list-style-type: none">1 学校PR動画（YouTube）作成に取り組んだ。 動画をアップするまでには至っていない。
地 域	上郡町内を中心とした取組が中心。
事 業 の 効 果	<ol style="list-style-type: none">1 高校生への教育効果 高校生自身は、この取組で自己有用感を味わえ、課題解決能力も身についた。さらに、今後各自が自分の故郷について考え、行動する主体性を持たせるきっかけとなった。2 町行政機関等への効果 高校生が地域の活性化について、その将来構想を提言、発信することで、町の関係機関、商業施設や産業への刺激となった。 (例) 上郡町の地域活性化に向けた上郡高校生と町議会議員との懇談会の実施（10/19）

事業経過	4月 6月～	活性化プロジェクト組織づくり セクション別活動開始 ・甲冑作り、ポスター作り、ドローン撮影 ・YouTube ・上郡町活性化提言 ・駅前イルミネーション
	10月	上郡町の地域活性化に向けた上郡高校生と町議会議員との懇談会
	1月	成果報告会（校内）



○甲冑作り 6月～10月

MERRY WIDOW

営業時間 9:30～18:30
水曜定休日

住所 高尾県赤松郡上郷町上郷44-2
Tel 0791-62-5757

入札No.1
メニュー
オリジナル

Q&A

Q1.なぜ上郷町に店を出したのか？
A1.カワイイを売った方が多かったので。

Q2.文庫にしていることは？
A2.お客様の来店に応じてできるようにできることは考えたい。

Q3.どの曜日・時間帯が一番お客様が多い？
A3.土曜、日曜に多い。日曜日が多い。

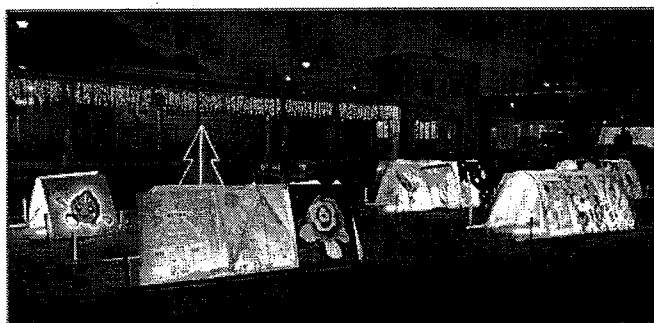
Q4.おすすめの商品は？
A4.1位メリメロ 7位和菓子のモダンデザイン 2位カラコアラ

その他
デザートドリンクのセットメニューがある。

○ポスター作成 10月



○校長室に出陣！ 11月



○駅前イルミネーション 12月 ※11月開催の文化祭で、各クラスで作成したアクリル板の
スタンドグラスを利用

協働の相手方	<p>【今年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上郡町（高校生による地域情報発信サポーター育成事業 令和2年度より） ・赤松手作り鎧・兜の会（甲冑作り）
今後の展望	<p>1 高校生による地域情報発信サポーター育成事業 町内資源の活用 町内の景勝地、店舗、サイクリングマップ等を国内外にPRすることで、国内外からの交流人口を増やす。（YouTube 動画）</p> <p>※今年度は、YouTube での配信を試みたが、動画アップまでには至らず、内容も上郡町の紹介の一部に留まった。</p> <p>2 町の特産品を使った、「ふるさと納税 返礼品」の開発</p> <p>3 上郡町ならではの大量の〇〇を考える。 （例）大量の風車（かざぐるま）などを駅前の芝生に飾る。 神戸のルミナリエ（大量の光のアート）</p> <p>※上記2、3に関しては、令和3年10月19日（火）に本校で行われた、「地域活性化に向けた上郡高校生と町議会議員との懇談会」にて、本校生徒が提案した内容である。 この会は、上郡町活性化提言の取り組みとして、コロナ前まで行っていた、町議会傍聴の代わりとなるものとして行われた。例として2つ挙げたが、次年度に引き継ぐ内容は、今後校内で検討予定である。</p>

問合せ先	<p>住所：〒678-1233 兵庫県赤穂郡上郡町大持 207 番地 1</p> <p>氏名：中瀧 健一</p> <p>TEL：0791-52-0069 FAX：0791-52-0071</p> <p>メール：gizr1517@hyogo-c.ed.jp</p>
------	---

事業名：佐用町ファッションプロジェクト

団体名：＜ 兵庫県立佐用高等学校家政科 ＞

所在：佐用郡佐用町佐用 260

代表：西坂 美樹

目的	<p>ファッション分野で佐用町を元気に！ 高校生が教科「家庭」の各分野について学習したことを地域の中で体験的に実践し、ファッションの力で地域活性化を目指す。</p> <p>(1) ファッションショーを通して、福祉施設や地域の多世代の人々が交流できる機会を作り、高校生が幅広い年齢層の中心となって活動し、地域社会のつながりを深める。</p> <p>(2) 佐用町と佐用高校家政科の研究活動を紹介するイベントを企画し、佐用町内外の方々に佐用の魅力を発信する。</p> <p>(3) 地域の特産品、伝統産業を用いた衣装製作や小物製作に取り組み、佐用高校生が考えるファッションブランド開発、地域の特産品、伝統産業の利用法を探り、生徒の様々な力を育む。</p>
内容	<p>上記の目的を達成するために、以下の活動を実施した。</p> <p>(1) 多世代交流による衣装製作、ファッションショー、映像制作の実施</p> <p>(2) イベント・講習会の企画、地域活性化に貢献</p> <p>(3) 佐用町の天然染料を使用した染色や皆田和紙の研究、商品開発・販売</p>
地域	佐用町
事業の効果	<p>(1) 多世代交流による衣装製作、ファッションショー、映像制作の実施 佐用保育園、さよう子育て支援センターの施設利用者の方々に衣装を製作し、各施設でファッションショーを行った。モデル依頼、採寸、デザイン調査、製作、映像撮影においては生徒自身が計画を立てて実行し、モデルとの交流を深めた。また、朝陽ヶ丘荘にはユニバーサルデザインに配慮した高齢者服や服飾雑貨を製作し、プレゼントした。</p> <p>コロナ禍により、全ての施設においてイベントが減少している中で、「今までとは違った形でも交流関係が継続していけるのはありがたい」、「イベントがあるのが嬉しい」という言葉をいただいた。新しい生活様式の中であるからこそ、ファッション分野でQOLを向上させる地域貢献活動を行うことができた。</p> <p>(2) イベント・講習会の企画、地域活性化に貢献 古民家で「高校生カフェ2021 in平福」を実施し、生徒の研究発表の場を作ることができた。展示スペースでは、生徒によるファッションショーの上映や、皆田和紙を用いた衣装を飾り、食分野だけでなく被服分野からもイベントを盛り上げた。イベントを通して、多くの方に家政科の取組や佐用町の良さを知っていただき、佐用の特産品や伝統産業の発信を継続することによって、周囲からの関心や期待も高まっている。</p> <p>また、防災とファッションを関連付けた減災ワークショップを企画し、佐用小学校でキャンディーレイ作りの講習会を実施した。イベントや講習会を一から企画することで企画力やコミュニケーション力など様々な力が身につき、生徒の大きな達成感にもつながった。</p> <p>(3) 佐用町の天然染料を使用した染色や皆田和紙の研究、商品開発・販売</p>

伝統産業である皆田和紙を使った衣装製作と商品開発に取り組み、イベントで発表・展示・販売活動を行った。商品開発では、コロナ禍でおうち時間を楽しんでいただけるよう皆田和紙を使ったコースターとアロマバーの開発・販売活動に成功した。今年度からオリジナルブランド「S.homic」を立ち上げ、商品にブランドロゴを付けて販売した。ブランドを定番化していくことで、次年度へと引き継ぐ土台作りとなった。また、(1)の取組で草木染を活用し、染色の探究活動を行うことができた。

これらの活動は、生徒の企画力・実践力を育むと共に、地域を研究したり、継承活動を行っている方と交流したりすることで地域理解が深まり、地域に愛着をもつことができた。

事業経過	目	(1)多世代交流による衣装製作、ファッションショー	(2)イベント・講習会企画	(3)商品開発 染色・皆田和紙研究
	6月	デザイン検討		準備(展示物、カフェ)
7月	アンケート作成			作品製作
8月				
9月	衣装製作開始			
10月	衣装製作交流会(佐用保育園)		キャンディーレイ講習会準備	
11月	試着会(さよう子育て支援センター) ファッションショー撮影(さよう子育て支援センター)		講習会実施(佐用小学校)	兵庫県高等学校総合文化祭にてファッションショー、商品販売
12月	映像制作 ファッションショー撮影(佐用保育園)		「高校生カフェ2021 in平福」実施	各イベントで商品販売 作品展示
1月				
2月	ウォーキング練習2年			
3月	DVD配布			和紙染色の講習会2年 (皆田和紙保存会)

(1) 多世代交流による衣装製作、ファッションショー、映像制作の実施



衣装お絵かき(佐用保育園)
(11月12日@佐用保育園)



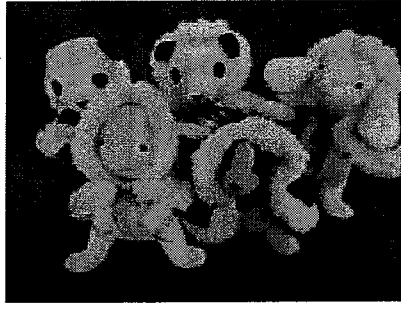
試着会(佐用子育て支援センター)
(11月2日@佐用高校)



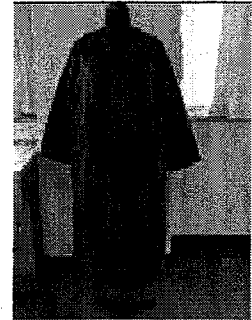
撮影①
(11月15日@さよう子育て支援センター)



撮影②
(12月14日@佐用保育園)



ぬいぐるみ作品
(佐用子育て支援センター)



高齢者服
(朝陽ヶ丘荘寄贈)

(2) イベント・講習会の企画、地域活性化に貢献



高校生カフェ展示の様子
(11月13日@お休み処瓜生原)



キャンディーレイ作り
(11月26日@佐用小学校)

(3) 佐用町の天然染料を使用した染色や皆田和紙の研究、商品開発・販売



県総合文化祭ファッションショー
(11月20日@神戸ハーバーランド)



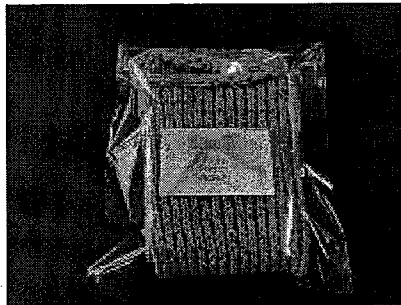
小物販売の様子
(11月20日@神戸ハーバーランド)



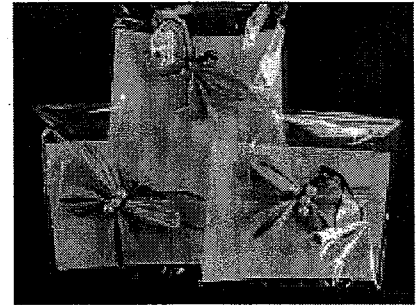
販売レイアウト
(11月20日@神戸ハーバーランド)



草木染講習会
(6月7日@佐用高校)



玉ねぎの皮で染めたレッグウォーマー
(朝陽ヶ丘荘寄贈)



草木染を使ったキーホルダー
(朝陽ヶ丘荘寄贈)

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> ・佐用町立佐用保育園 ・さよう子育て支援センター ・朝陽ヶ丘荘 ・社会福祉法人佐用福祉会いちよう園 ・社会福祉法人くすのき会播磨園 ・皆田和紙保存会 ・平福お休み処「瓜生原」 ・平福文化と観光の会 ・平福地域づくり協議会 ・佐用小学校
今後展望	<p>(1) リモートファッションショーを行うにあたって、協働先のネット環境を事前に調査し、実施から公開までの方法を検討する。交流を継続し、直接対面することが難しい状況でも衣装製作を通じて地域貢献活動ができるよう時代に合わせた内容を考えていく。</p> <p>(2) 企画イベントや講習会ごとにテーマを決め、学校の取組と佐用町の魅力の両方を発信できる内容になるよう検討を重ねる。また、イベントを様々な世代や地域の方に周知していただくために、情報機器を活用した情報発信の方法を工夫していく。</p> <p>(3) 今後も伝統産業に関わる活動を続け、地域のPRにつながる衣装製作や新商品の開発に取り組む。また、販売場所の拡大を目指し、グローバルな視野を持って、世界に向けても発信していきたい。</p>

問合せ先	<p>兵庫県立佐用高等学校 家政科 小寺 由夏</p> <p>兵庫県佐用郡佐用町佐用 260</p> <p>TEL 0790-82-2434</p> <p>FAX 0790-82-2719</p>
------	--

事業名：高校生が考える「バリアのある人のための防災」

団体名：< 兵庫県立山崎高等学校 >

所在：兵庫県宍粟市山崎町加生 340 番地

代表：校長 武田 由哉

目的	<p>本地域は、山崎断層帯に位置しており、直下型地震の発生が危惧される。また、昨今は日本各地で大規模な気象災害が相次いでいる。その上、新型コロナウイルス感染拡大により発災時の避難がますます困難になっている。一方で高齢化が進み、本地域でも高齢者のみの世帯が増加している。</p> <p>昨年度実施した地域の高齢者家庭への訪問調査では、自力での避難が困難であったり、迷惑をかけたくないなどの理由で避難をあきらめている人が多いことが分かった。発災時に支援の必要な人が多いにも関わらず、支援をする側の人が多く、支援のノウハウも普及していない。</p> <p>生徒自身が防災リーダーとなって学びを深め、地域における「バリアのある人のための防災」について研究する。そして、その成果をまとめ、地域に還元する。また、地元自治会と連携した防災活動を継続することでつながりを深め、地域の防災意識の向上につなげる。</p>
内容	<p>「バリアのある人のための防災」をテーマに、コロナ禍の状況下でできること、すべきことを生徒自身が考え、主体的に学ぶ体験活動を行う。</p> <p>①災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を活用した防災学習と教材開発 ②防災についての学習（防災 WEB 検定受験・防災センター見学・防災士による講習会） ③バリアのある人のための防災についての研究及び成果の地域への還元 ④山高総合防災訓練の企画・実施（新型コロナウイルス感染予防に配慮した非常食体験等）</p>
地域	宍粟市
事業の効果	<p>・生徒が防災・減災についての理解を深め、防災リーダーとして地域の防災力向上に貢献しようとする姿勢を身につけることができた。</p> <p>・地域におけるバリアのある人のための防災について研究することで、災害弱者の立場に立って考える力が身についた。</p> <p>・非常時に、地域において支援者として主体的・積極的に行動できる人材を育成することができた。</p>
事業経過	<p>5月28日 災害対応シミュレーションゲーム「クロスロードゲーム」 6月18日 防災 WEB 検定受験・防災オリエンテーション・テーマ設定 9月3日 宍粟防災センター見学 9月10日 バリアのある人のための防災についての研究 ～10月8日 10月8日 防災体験活動（感染予防に配慮した非常食体験他）の企画・準備 ～12月16日 11月5日 防災士による防災講習会「バリアのある人の避難支援」 12月17日 山高総合防災訓練の実施 1月14日 バリアのある人のための防災についての研究成果のまとめ・展示物作成 ～2月10日</p>



5/28 クロスロードゲーム体験



11/12 食物アレルギー対応の非常食の研究



12/17 生徒運営のポリ袋炊飯実習



12/17 非常時に使えるミニ手話講座

協働の相手方	<p>宍粟防災センター 宍粟市山崎町加生自治会</p>
今後の展望	<p>山崎高校防災体験活動は今年度で9年目となり、生徒が主体となって継続的に取り組んできたことは高く評価されており、1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」では6年連続の入賞を果たし、今年度は奨励賞を受賞した。</p> <p>今後も、学校の特性を生かしながら継続的に防災についての体験学習を行うとともに、地域の方々と連携した活動も続け、地域防災に対する意識を向上させていく。</p>

問合せ先	<p>兵庫県立山崎高等学校生活創造科 担当：多々良 恵 電話：0790-62-1730 FAX：0790-62-5849</p>
------	--

事業名： 伊和高生地域貢献・交流事業

団体名 : < 兵庫県立伊和高等学校 >

所在：宍粟市一宮町安積 616 番地 2

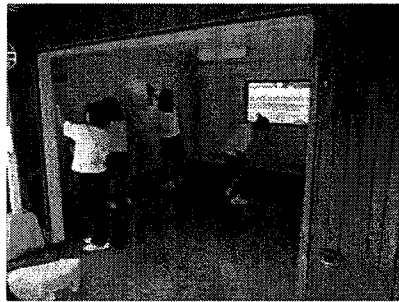
代表：校長 岡本 孝広

目的	<ol style="list-style-type: none">1 本校生が地域の行事や清掃活動等に積極的に参加し、ボランティア活動等を行うことで、地域の活性化に貢献する。また、地域の一員であることの意識を高め、主体的な行動ができる力を育成するとともに、ふるさと・宍粟を大切にする心を育む。2 本校生が、公共施設や福祉施設等を訪問することで、少子化、人口減少化が進む地域の現状や課題を理解し、地域の課題解決に向け、積極的に取り組む心を養う。3 地域防災に重点を置き、地元自治会と合同防災避難訓練を実施するなど、本校が避難所開設した場合、生徒が中心となり、その運営をできるようにする。
内容	<ol style="list-style-type: none">1 地域貢献活動<ol style="list-style-type: none">(1) 本校生徒が利用しているバス停及び通学路の清掃活動(2) 緊急時の対応が円滑に行える AED 講習会(3) 地域の現状と課題について話し合い(4) 子供服の古着を回収して世界の難民の子どもたちに届けるプロジェクト(5) 季節の貼り絵を作成し、認定こども園「はりま一宮こども園」に寄贈(6) 視覚障がい者の生活について講義と体験授業(7) 防災避難訓練で自分や地域住民の命を守る活動(8) 点字学習(9) 交通安全マスコットを作成し、宍粟市交通安全協会に寄贈(10) 手作りクリスマスカードを作成し、子育て支援センターと社会福祉協議会に寄贈2 交流活動 コロナ禍の影響で実施できなかった。3 課題 避難所開設した場合、快適な避難所生活を送ることができるよう使用備品の充実を図るため、当該物品について購入する。
地域	宍粟市
事業の効果	<ol style="list-style-type: none">1 公共施設や福祉施設等での地域貢献活動を通して、地域理解を深め、ふるさとへの誇りや愛着心が高まった。また、多くの方に感謝されることにより、生徒自身の自己有用感が高まった。2 学校周辺の清掃活動を通して、地域への思いが深まり、ふるさと・宍粟を大切にする心を育むことができた。3 コロナ禍の影響で地元自治会との合同避難訓練は実施できなかったが、生徒が防災意識を高め、快適な避難所生活を送ることができるように準備をした。

事業経過	6月 7日	本校生徒が利用しているバス停及び通学路の清掃活動
	6月 11日	地域の産業や親の仕事について調べ学習
	6月 22日	緊急時の対応が円滑に行える AED 講習会
	7月 21日	地域の現状と課題について話し合い
	9月 2日	子供服の古着を回収して世界の難民の子どもたちに届けるプロジェクト
	10月 4日	季節の貼り絵を作成し、認定こども園「はりま一宮こども園」に寄贈
	10月 18日	視覚障がい者の生活について講義と体験授業
	10月 20日	防災避難訓練で自分や地域住民の命を守る活動
	10月 25日	点字学習
	12月 3日	交通安全マスコットを作成し、宍粟市交通安全協会に寄贈
	12月 7日	手作りクリスマスカードを作成し、子育て支援センターと社会福祉協議会に寄贈



通学路の清掃活動



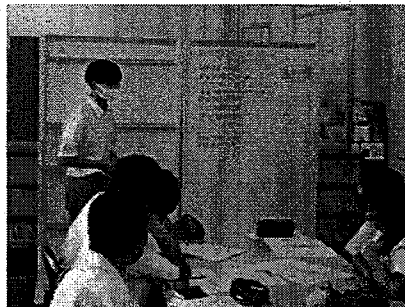
バス停の清掃活動



地域の産業や親の仕事について調べ学習



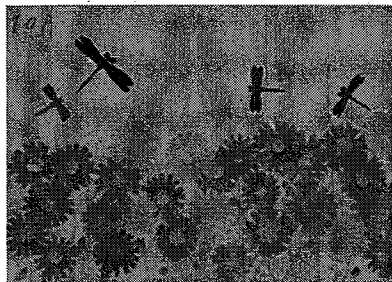
AED 講習会



地域の現状と課題について話し合い



古着回収プロジェクト



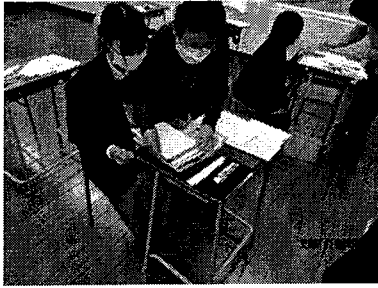
季節の貼り絵寄贈



視覚障がい者生活について講義と体験授業



防災避難訓練



点字学習



交通安全マスコット
宍粟市交通安全協会に寄贈



クリスマスカード
宍粟市一宮町子育て支援センター
社会福祉協議会に寄贈

<p>協働の相手方</p>	<p>社会福祉協議会 宍粟消防署一宮分署 認定こども園「はりま一宮こども園」 一宮子育て支援センター 宍粟市交通安全協会 子育て支援センター 宍粟市商工会議所 一宮保健福祉センター 宍粟市内中学校</p>
<p>今後の展望</p>	<p>昨年度からすべての学年が定員40名となり、学校規模が小さくなる中、今年度もコロナ禍の影響で交流活動がすべて実施できなかった。それに代わる事業として、生徒が作成した作品を地元の関係機関に寄贈した。今後もキャリア教育の推進を図りながら、地域への積極的参加を促し、地域貢献・交流を継続しながら地域課題に向け、積極的に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>兵庫県立伊和高等学校 宍粟市一宮町安積 616-2 TEL 0790-72-0240 FAX 0790-72-0241 担当 教頭：大永 秀徳</p>

事業名： ちくさ地域力UPプロジェクト

団体名： < 県立千種高等学校 >

所在： 宍粟市千種町千草727-2

代表： 校長 齋藤 勝

目的	<p>本校が所在する宍粟市千種町は、少子高齢化が進行し町内の小・中学生は年々減少している。また、商店街もシャッターを下ろす店も増えている実情がある。</p> <p>そこで、本校生徒が様々な形で地域の行事に参画し、地域の活力に寄与することで地域力UPにつなげることを目的として「地域交流」を大切にしてきた。また、若者世代の定住を目的とし都市部にはない「千種の自然と魅力」を感じる取組みも継続させている。これら双方の取組みが機能すれば、本校の魅力ある教育活動の定着とひいては千種町の発展に繋がっていくものと確信する。</p>	
内容	<p>○地元の事業所と連携した就業体験 ○クリンソウ土壌調査</p> <p>●自治体主催行事での和太鼓の演奏 ●園小中高ふれあい文化祭の実施</p> <p>○地域と連携した米作りと収穫米の活用 ○施設の花壇装飾</p> <p>○地域団体と連携した水生生物および水温調査の実施</p> <p>○サイエンスフェア in 兵庫等における千種川水生生物等の研究発表</p> <p>●町内各種イベントにおける地域住民との交流ボランティアへの参加</p> <p style="text-align: right;">※●新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった事業</p>	
地域	千種町	
事業の効果	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も行事の中止や縮小を余儀なくされた一年であったが、とりわけ「地域と連携した米作り」は非常に大きな成果を得ている。</p> <p>収穫したお米のコンテスト出品、商品化、販売実習、売上金の寄付、給食としての利用など発展させることで、地域への誇りが湧き、地域を愛する心が育まれている。また、様々な活動を主体的に取り組むことで、地域における役割が理解でき、自己肯定感が育成され、生徒が自信を深められている。今後も、本校生が地域づくりに参画し、豊かな自然の中で若者と高齢者が共生する土壌をつくり上げていきたい。</p>	
事業経過	<p>5月28日</p> <p>9月11日</p> <p>9月24日</p> <p>10月25日</p> <p>11月20日</p> <p>11月27日</p> <p>12月末日</p> <p>1月17日</p> <p>1月22日</p> <p>2月4日</p>	<p>地域農業指導者による小中高合同田植えを実施</p> <p>千種川の水生生物調査</p> <p>地域農業指導者による小中高合同稲刈りを実施</p> <p>福祉施設の花植えボランティア</p> <p>クリンソウ土壌調査</p> <p>第15回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト決勝大会（山形県）で優秀金賞を受賞</p> <p>ちくさ学校給食センターへお米の寄贈</p> <p>金賞米を使用した学校給食が町内の園治と小中高生に提供される</p> <p>商品化したお米を市内3カ所の道の駅で販売</p> <p>お米販売での売上金をピースインズジャパンへ全額寄付</p>



5月28日 小中高合同田植え



9月24日 小中高合同稲刈り



1月17日 金賞米を使用した給食



1月22日 道の駅での販売実習

協働の相手方	<p>①ちくさ杉の子保育園、千種小学校、千種中学校、ちくさ図書館、千種市民局、エーガイヤちくさ、千草クロスカントリークラブ、ちくさ高原スキー場、たかのす東小学校、いまい農場、千種B&G海洋センター（以上、就業体験）</p> <p>②地域農業指導者、地域住民、ちくさ杉の子保育園、千種小学校、千種中学校、ちくさ学校給食センター、JAハリマ、千種市民局、宍粟市役所、関西テレビ、神戸新聞社、朝日新聞社（以上、米作りと活用）</p> <p>③千種川を守る会、千種小学校、千種中学校（以上、水生生物・水温調査）</p>
今後の展望	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、来年度以降も活動は制限されるかも知れないが、可能な限り本校生徒が地域に関わり活力を提供していくと共に、千種の魅力を感じる取組みを継続させたいと考える。</p> <p>お米の美味しさを競うコンテストで全国2位を2年連続で受賞したが、来年度は美味しいお米づくりだけでなく、宍粟市役所と連携し特別栽培米づくりに取り組みたいと考える。農薬や化学肥料が環境にどのような影響を与えるのか…、「私たちができるSDGs」を高校生が率先して発信することで、地域全体への取組へ発展させ地域の活力に繋げていきたい。</p>

問合せ先	<p>県立千種高等学校 教頭 細見 幸司</p> <p>TEL 0790-76-2033</p> <p>FAX 0790-76-2233</p> <p>e-mail Kouji_Hosomi@pref.hyogo.lg.jp</p>
------	--

(別紙1) 事業実施報告書

事業名：地域との連携・協働による伝統文化の継承と地場産業および地域の活性化

団体名：< 龍野北高等学校総合デザイン科 >

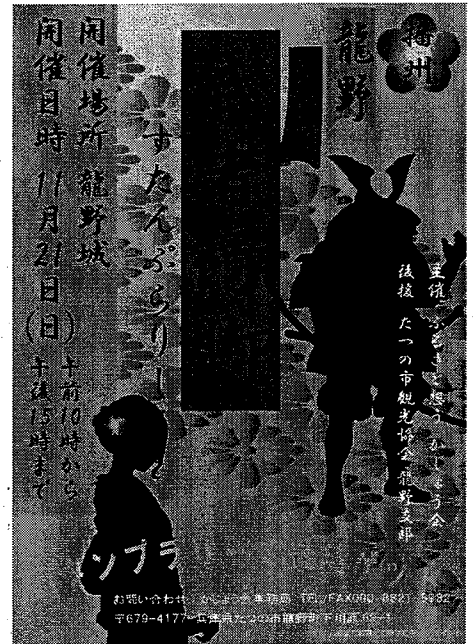
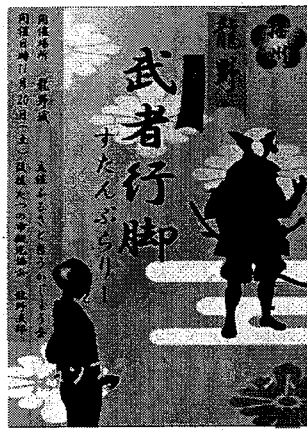
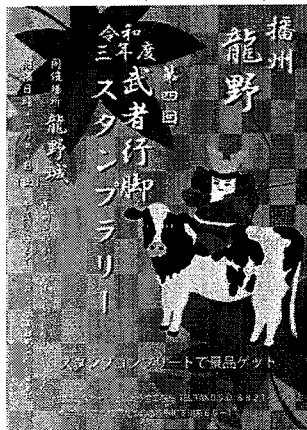
所在：たつの市新宮町芝田 125-2

代表：香山 正博

目的	<p>1) たつの市龍野地区（歴史的景観形成地区）で行われている伝統文化のPRと次世代への継承を図ること</p> <p>2) たつの市の地場産業である皮革の魅力のPRと皮革産業の活性化を図ること。</p>																				
内容	<p>1) 龍野武者行脚のポスターとスタンプラリーパンフレットの作成 龍野武者行脚のポスターとスタンプラリーパンフレットの制作を行い、地域で行われる行事のPR活動して、伝統文化への理解と継承を図る。</p> <p>2) 皮革を使った焼きコテアート体験 たつの市の地場産業である皮革の魅力のPRと皮革産業の活性化を目的として、皮革を使った焼きコテアート体験を行う。焼きコテアート体験は、抜き金型を使用して様々な種類の形状に加工した皮革に来場者の方が絵や文字を描きたい形を選んで、電熱ペンを使用して個人のオリジナル作品を制作し、アクセサリとして利用してもらう作品作りである。 今年度は、新しい抜き金型を数種類製作し、2月に開催する町ちゅう美術館で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況が悪化したため、やむなく中止した。</p>																				
地域	たつの市																				
事業の効果	<p>1) 龍野武者行脚のPRのためのポスターとスタンプラリーパンフレットを高校生が制作し、PRすることによって、伝統文化の継承のきっかけとすることができる。</p> <p>2) 地場産業の皮革を使用した体験活動を行うことによって、地場産業の皮革を身近なものとして多くの方に知ってもらい、地場産業の活性化に協力することによって、地域の活性化につなげる。また、生徒の社会意識を向上させ、地域の行事に参加することで地域貢献に寄与する。</p>																				
事業経過	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="255 1601 518 1646">7月～8月</td> <td data-bbox="518 1601 1473 1646">皮革用抜き型のデザイン案の作成</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1646 518 1691">"</td> <td data-bbox="518 1646 1473 1691">飛沫感染防止対策制作</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1691 518 1736">9月</td> <td data-bbox="518 1691 1473 1736">龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の作成</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1736 518 1780">10月</td> <td data-bbox="518 1736 1473 1780">龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の検討と改良</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1780 518 1825">11月</td> <td data-bbox="518 1780 1473 1825">龍野武者行脚のポスター・パンフレット制作</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1825 518 1870">12月</td> <td data-bbox="518 1825 1473 1870">皮革の型抜き作業</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1870 518 1915">1月</td> <td data-bbox="518 1870 1473 1915">焼きコテアート見本作品の制作</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1915 518 1960">2月</td> <td data-bbox="518 1915 1473 1960">イベント用看板の制作</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1960 518 2004">2月11日～13日</td> <td data-bbox="518 1960 1473 2004">龍野武者行脚ポスターの展示（町ちゅう美術館会場）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 2004 518 2049">"</td> <td data-bbox="518 2004 1473 2049">焼きコテアート体験（町ちゅう美術館会場）中止</td> </tr> </table>	7月～8月	皮革用抜き型のデザイン案の作成	"	飛沫感染防止対策制作	9月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の作成	10月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の検討と改良	11月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット制作	12月	皮革の型抜き作業	1月	焼きコテアート見本作品の制作	2月	イベント用看板の制作	2月11日～13日	龍野武者行脚ポスターの展示（町ちゅう美術館会場）	"	焼きコテアート体験（町ちゅう美術館会場）中止
7月～8月	皮革用抜き型のデザイン案の作成																				
"	飛沫感染防止対策制作																				
9月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の作成																				
10月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット案の検討と改良																				
11月	龍野武者行脚のポスター・パンフレット制作																				
12月	皮革の型抜き作業																				
1月	焼きコテアート見本作品の制作																				
2月	イベント用看板の制作																				
2月11日～13日	龍野武者行脚ポスターの展示（町ちゅう美術館会場）																				
"	焼きコテアート体験（町ちゅう美術館会場）中止																				

【1】龍野武者行脚のポスターとパンフレットの作成行程

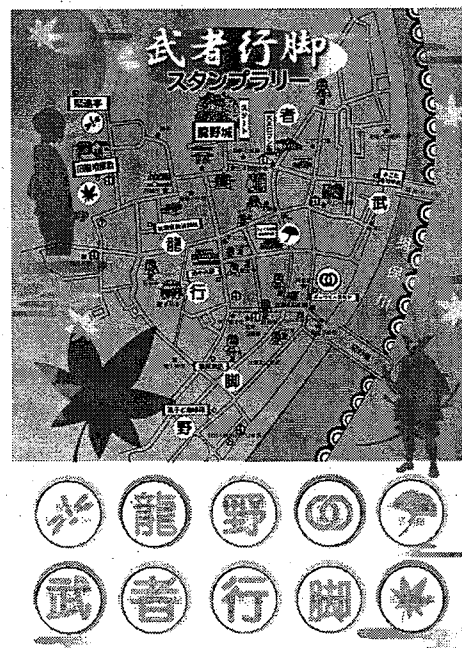
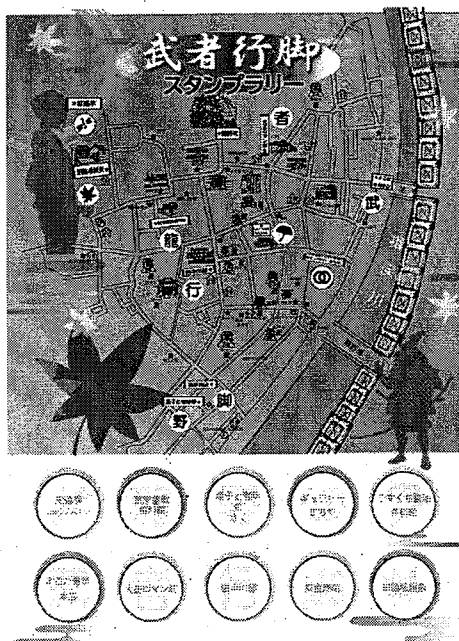
龍野武者行脚のポスター原案4作品作成（9月）



最終決定ポスター（11月）

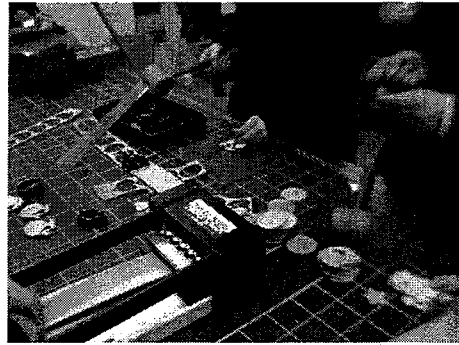
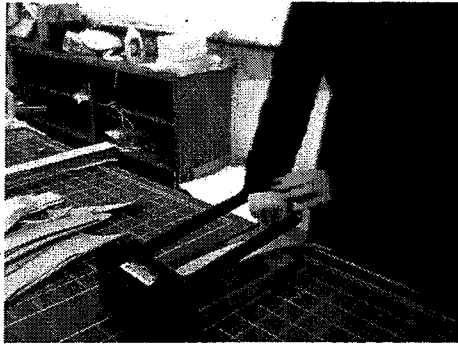
龍野武者行脚のパンフレット原案作成（9月）

最終決定パンフレット（11月）

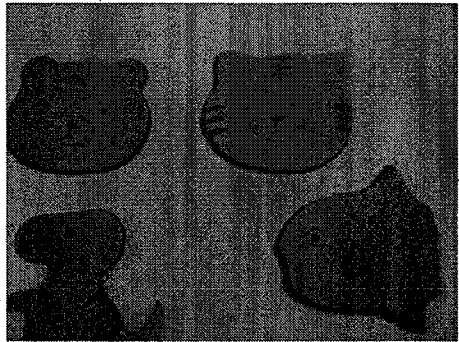
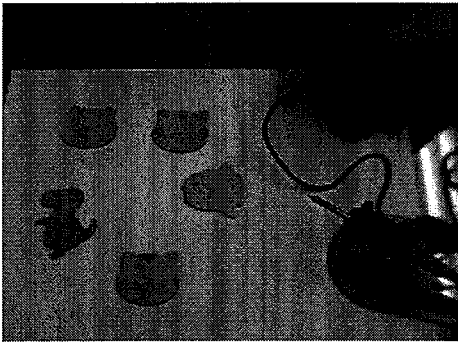


【2】皮革焼きコテアート体験制作工程

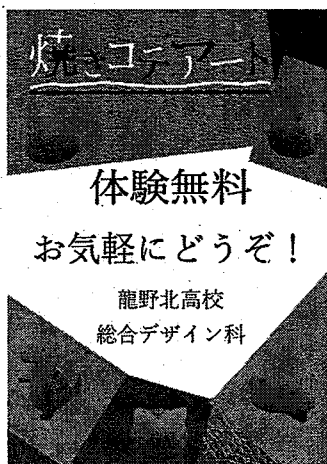
皮革の型抜き作業(1 2月)



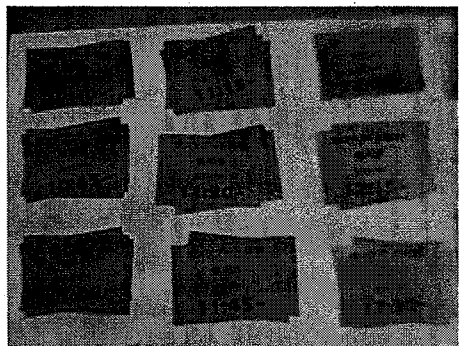
焼きコテアート見本作品の制作 (1月)



イベント用看板の制作 (2月)



当日体験用の整理券



※ 掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	かじょう会（龍野地区の地域づくり活動団体）
今後の展望	<p>1) 今回制作した龍野武者行脚のPRのためのポスターとスタンプラリーパンフレットは、龍野地区の伝統文化を知るための良いきっかけとなったので、次年度からも継続して、本校総合デザイン科生徒が制作しようと考えている。</p> <p>2) 皮革を使った焼きコテアート体験は、短時間で簡単にオリジナルの皮革アクセサリーを制作することができ、例年好評であるが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむなく中止した。次年度は、様々なイベントの機会を活用して、この体験を行い地場産業の皮革のPR活動を兼ねて、地域の活性化に寄与していきたいと考えている。</p>

問合せ先	<p>龍野北高等学校 総合デザイン科 担当 香山 〒679-4316 たつの市新宮町芝田 125-2 TEL：0791-75-2900 FAX：0791-75-2296 メール：tatsunokita-hs-des@hyogo-c.ed.jp</p>
------	--



6月19日店舗営業



10月12日ミニのぼり配布



11月23日レザークラフト体験教室



1月13日レザークラフト体験教室

※ 掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	兵庫県立龍野北高等学校総合デザイン科 兵庫県立相生産業高等学校 兵庫県立佐用高等学校 兵庫県立上郡高等学校 兵庫県立香住高等学校 兵庫県立家島高等学校 兵庫西農業協同組合ふれあい教室
今後の展望	<p>「課題研究」を受講する3年生を中心に定時制の生徒全員で「高校生の店 龍北工房」の運営にあたることによって、校内の活性化を促す。</p> <p>店舗所在地のたつの市下川原地区と協働し、地域に貢献する</p> <p>商品を仕入れる学校をさらに開拓し、交流機会を増やしてコミュニケーション力の向上を図る。</p>
問合せ先	兵庫県立龍野北高等学校定時制課程 商業科教諭 山本芳久 電話：0791-75-2900 Fax：0791-75-2296

事業名： 地域をつなぐ相産定時制

団体名： <兵庫県立相生産業高等学校 定時制課程>

所在：相生市千尋町 10 番 50 号

代表：柴田 英俊

目的	<p>本校は相生市千尋町に所在する。同自治会は高齢化が進み、1世帯当たりの住民数も減少している。また、住民同士の交流の機会も減少し、つながりも希薄になっている。そこで、本校が実施する学校行事を自治会住民も参加できる内容で計画・実施し、自治会主催の行事には本校の生徒・教職員が参画することにより、地域住民との交流の機会を増やし、学校と地域・住民同士のつながりをより強固にすることが期待できる。</p> <p>納涼祭での工作コーナーや子ども向け遊具での交流が好評であったため、引き続き計画・実施することで、ものづくりを通じた交流の機会を増やすことを目的とした。</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> 工業科目を学ぶ生徒の技術を活かしたものづくりで、地域に貢献することを図った。 本校が実施する学校行事（陶芸教室・ていじ祭・課題研究成果発表会）を自治会住民も参加できる内容で実施した。 千尋町納涼祭に向け、「木のおもちゃ」等の製作や、ものづくりの楽しさを実感してもらう子ども向け「工作教室」を計画した。 安全標識（飛び出し爺や・飛び出し婆や）の製作を行い、相生市危機管理課や相生市社会福祉協議会と連携し、設置区域を拡大させた。 	
地域	相生市	
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 本校が実施する学校行事にも自治会住民に参加してもらい、また生徒が自治会の行事に参画することで、地域住民と本校の生徒・教職員との交流の機会が増え、学校と地域のつながりや住民同士のつながりも深まった。 生徒の活動や製作物が地域に役立つとともに、生徒が達成感を得ることができた。 	
事業経過	<p>5月</p> <p>5月～</p> <p>6月中旬</p> <p>6月～</p> <p>6月～</p> <p>8月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>1月</p> <p>2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 千尋町自治会役員との連絡、意見交換（今年度の計画：千尋町納涼祭への参加など） 千尋町納涼祭に向けての準備（工作教室用「カタカタ人形」「木のおもちゃ(パズル)」の製作） 千尋町納涼祭（中止の連絡を受ける。） 製作作業は、次年度納涼祭に向けて継続 安全標識（飛び出し爺や・婆や）の製作 相生市社会福祉協議会からジュニアボランティアスクールの講師依頼を受け、小学生工作教室と安全標識製作に向けての試作、準備開始。 相生市内の小学生 24 名と製作作業をとおして交流(相生市総合福祉会館) 備前焼陶芸教室（自治会住民とともに備前焼の陶芸体験） ていじ祭（文化祭）での陶芸作品・木のおもちゃ・パズルの展示 地域住民来場者への木工工作コーナー実施。 自治会に公開した課題研究成果発表会（1年間の取組を発表、意見交換） 安全標識（飛び出し爺や・婆や）を相生市危機管理課および学校近隣の千尋町自治会に寄贈、設置。



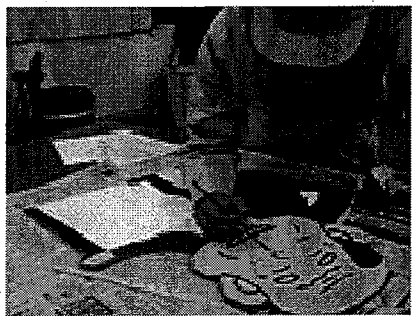
千尋町納涼祭に向けての計画
「木のおもちゃ」製作の様子
(5月～)



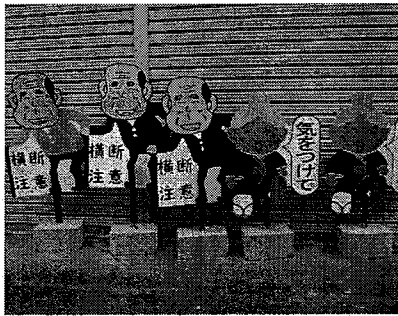
子どもが安全に遊べる
「木のおもちゃ(パズル)」製作
(5月～8月)



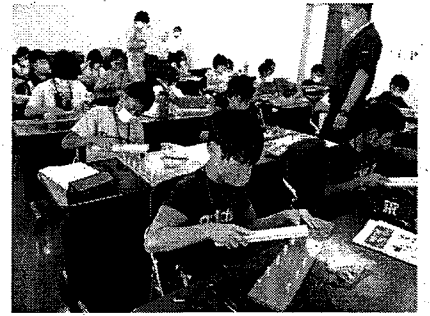
小学生工作教室に向けての
準備・試作
(5月～8月)



安全標識「新作・爺や」
製作の様子
(5月～1月)



「飛び出し爺や・婆や」
製作作品
(5月～1月)



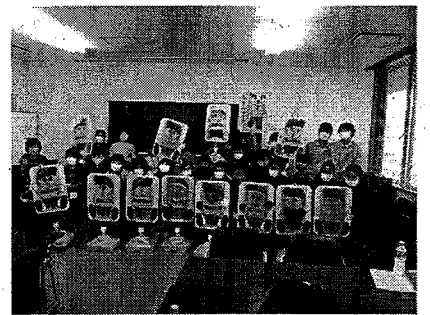
小学生工作教室での交流
《相生市立総合福祉会館》
(8月10日)



作品を完成させた
小学生の様子
(8月10日)



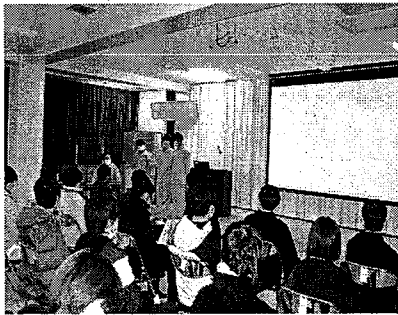
ジュニアボランティアスクール
「安全標識」製作で交流
(8月11日)



交流後の記念撮影・意見交換
《相生市立総合福祉会館》
(8月11日)



ていじ祭 千尋町自治会の方々
と木工工作で交流
(11月22日)



自治会に公開した
校内課題研究成果発表会
(1月25日)



相生市 危機管理課および
千尋町自治会へ作品寄贈・設置
(2月1日)

協働の相手方	<p>相生市千尋町自治会</p> <p>相生市役所</p> <p>相生市社会福祉協議会</p>
今後の展望	<p>近年の千尋町納涼祭では、自作したピンボールゲーム・魚釣りゲーム等の遊具が子ども達に好評であり、今年も「木のおもちゃ・パズル」、「カタカタ人形工作」等での地域住民との交流を計画し、工業高校生の工作技術を活かせる内容で準備を進めていたが、6月に千尋町納涼祭は中止決定となった。しかし、同時期に相生市社会福祉協議会からジュニアボランティアスクールでの講師依頼があり、子ども向け工作教室「カタカタ人形」製作を8/10に計画し、実施できた。8/11には簡易型安全標識「飛び出し坊や」を製作し交流できた。</p> <p>相生市に寄贈する安全標識はバリエーションを豊富にし、6個完成できた。これらは相生市危機管理課を通して、近隣の自治会へ寄贈し、地域で有効活用してもらうことになった。</p> <p>納涼祭は中止となったが、課題研究成果発表会には千尋町連合自治会長に出席していただき、1年間の取組を発表できた。また「学校だより」にも取組内容を記載し、千尋町で回覧してもらった。</p> <p>また、備前焼陶芸教室、ていじ祭など千尋町住民に参加してもらい、励ましの言葉をかけてもらった。</p> <p>学校と地域のつながりを大切にし、今後も本校生が機械科で学んだ知識・技術を活かし、地域に貢献するものづくりを進めることで、より一層、地域と連携していきたい。</p>

問合先	<p>教諭 都倉 宏之</p>
-----	-----------------

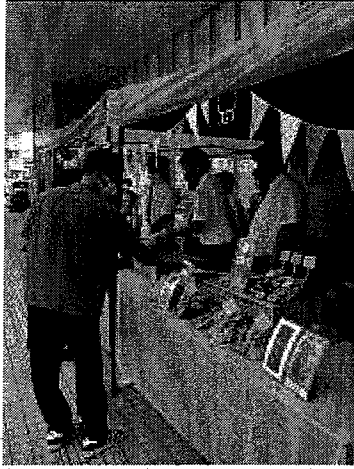
事業名： 播特発！「たつのコミュニティ」の創生

団体名： < 兵庫県立播磨特別支援学校 >

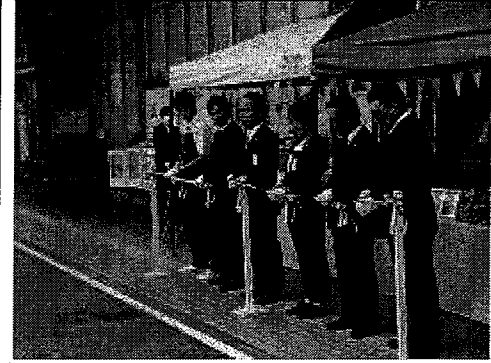
所在：たつの市揖西町中垣内乙 135 番地 1

代表：校長 下雅意 一之

目的	「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の充実したまち」が将来に対する高い要望であるが、少子高齢化により、地域コミュニティの維持が困難になることから、地域活力の活性化のための拠点づくりが必要である。地域資源を活用し、地域の企業の協力を得て、生徒が地域の方々への憩いの場とコーヒーを提供することで地域コミュニティの場を創生する。そして、地域住民との交流を通して、地域の方への障害理解を促すとともに生徒に地域社会の一員であることを自覚させる。				
内容	本校生徒がマックスバリュ龍野店舗において、神戸芸術工科大学学生と共同で制作した店舗で、特定非営利活動法人いねいぶる提供のコーヒーを販売することを通して、地域住民との交流を深めた。10月のオープニングセレモニーには県議会議員やたつの市長をはじめ、多くの来賓の出席のもと、店舗営業を開始することができた。その後は、月1回の営業を続けることで「Café はりま」が定着し、買い物客だけでなく多くの地域住民が来店してくださり、地域への認知度も高まった。 従来から行っている近隣の小学校との交流会が実施できた。去年はコロナ感染防止の観点から見送られたが、本校生と小学生との交流を図ることができた。				
地域	たつの市				
事業の効果	地域社会に対して、憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解がさらに深まった。生徒へのアンケートから、当初は自分からの声掛けが積極的に行えなかったが、お客様からの「ありがとう」や「頑張ってるね」という声掛けにうれしくなり、2回目の接客からは積極的に声掛けを行うように心掛けたという前向きな姿勢を伺うことができた。お客様とも交流する機会となり、学校での販売実習にも来てくださる方もおられた。 また、小学校との交流及び共同学習では、清掃活動を通して、児童と生徒がお互いに声を掛け合える体験とすることができた。				
事業経過	日時	場所	内容	参加者数	スタッフ数
	10月13日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」のオープニングセレモニー及び営業	7	8
	11月10日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	6
	12月1日	揖西西小学校	清掃活動による交流	12	4
	12月8日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	6
	1月19日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	5	7
	3月2日	本校	揖西東小学校との製作交流	5	3
	3月9日	マックスバリュ龍野店	「Café はりま」の営業	7	6



写真① 令和3年9月15日
プレオープン（営業練習）



写真② 令和3年10月13日
オープニングセレモニーでのテープ
カット



写真③ 令和3年10月13日
接客の様子



写真④ 令和3年12月1日
揖西西小学校との交流

※ 掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ龍野店 NPO 法人 いねいぶる 神戸芸術工科大学 揖西西小学校 揖西東小学校
今後の展望	<p>地域社会に対して、憩いの場を提供するとともに、地域住民との交流を通して障害者理解がさらに深めることができた。生徒にとっても地域の方々とコミュニケーションをとるきっかけづくりとすることができている。</p> <p>次年度も地域コミュニティの場として継続して活動していく予定である。地域住民の障害理解をさらに促すために、市内の福祉作業所などの商品も販売していけるよう計画している。また、交流活動も継続することで、障害者理解啓発を広めていく見込みである。</p>

問合せ先	<p>住所：〒679-4002 氏名：教頭 松本 宗弘 TEL：0791-66-0091 FAX：0791-66-0092 メール：munehiro_matsumoto@pref.hyogo.lg.jp</p>
------	---

事業名：生徒の自己有用感を高めるために

団体名：＜ 県立赤穂特別支援学校 ＞

所在：赤穂市大津1305番地

代表：校長 内海 貴美子

目	<p>これからの共生社会実現のためには、障害者は単なる社会参加だけではなく、積極的に社会貢献できることが大切である。貢献するということは、社会参加を通じて周囲の人たちや社会のために役立っている自分を感じることが大切であるとする。また、障害者の就労について、職場実習先や就労先から「職場では、仕事の技能（スキル）を教えることはできるが、働くことへの意欲を育てることは難しい。」と言われている。技能面だけでなく、「内面の育ち」に焦点を当てた学校教育や就労支援、家庭生活の重要性がますます増しているとともに、社会から求められていると考える。</p> <p>しかし現状は、最近の世の中の共生社会実現の流れで、障害者の企業等への就労率が少しずつ改善されてきていると思うが、まだ低い現状がある。また、特別支援教育への理解啓発も徐々に進んできてはいるが、まだまだ不十分である。本校は、赤穂市街から離れた山間にあり、日常生活ではその存在が知られる機会はまれである。学校に外部の方々を招く、また、学校の外に出て地域社会で活動する機会を増やすことが、共生社会の実現につながると思う。</p> <p>また、特別支援教育の理解啓発を推進していくため、障害のある子どもと障害のない子どもがお互いに理解し協力し合えるような交流及び共同学習活動を推進する。そして、地域の企業や施設と協力して就労に向けた取組を進めることを通して、地域や企業への障害者理解を広めるとともに、障害のある生徒の社会で生きる力を育成していきたい。</p>
内 容	<p>将来福祉関係への就労を目指している上郡高校生徒を本校に招いて、本校の教育活動に参加してもらい交流及び共同学習を行う予定だった【今年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止】。日常の特別支援学校での学習活動に参加することによって、上郡高校の生徒たちには、特別支援学校でのいきいきとした活動を理解するとともに、福祉関係への就労に向け、将来への目標が具体化につながると思う。</p> <p>また、兵庫県の特別支援学校では、ビルクリーニング、物流・品出し、喫茶、パソコンなどの能力を、技能検定という形で実施し、より実践的な職業能力の育成を目指している。学校で培った力を、企業と協力しながら、地域社会で活用する姿を地域の方々に見ていただくことによって、特別支援教育の理解啓発並びに障害者雇用への理解を促進していく。また、そのような活動を通して、生徒の自己有用感を高め、働く意欲を向上させ共生社会の形成を目指している。</p>
地 域	赤穂市

事業の 効果	<p>兵庫県の特別支援学校で実施している技能検定に向けて学んだスキルを、地域の現場で活用する取組を行った。赤穂市福祉会館の清掃を請け負う企業とともに、施設内で清掃作業を行った。企業の清掃員の方々に作業方法を教えていただきながら、ダスタークロスやテーブル拭きなどの技能検定で学んだスキルを活用して清掃している様子を、施設の方や地域住民に見てもらってお声掛けをいただいたり、企業の清掃員の方々に褒めてもらった効果</p> <p>日々の学習で学んだ内容を、校外の公共施設での実践的な活動に展開し、他者から認められたり、褒められたりすることにより、自己有用感を高めて、働くための意欲や自信を養うことができた。</p>	
事業 経過	<p>令和3年8月</p> <p>令和3年9月</p> <p>令和3年11月</p> <p>令和4年 1~2月</p>	<p>兵庫県技能検定に参加（県教育委員会 特別支援教育課事業）</p> <p>県立上郡高校との交流及び共同学習【今年度は中止】</p> <p>株式会社 大健 校内講習会の実施</p> <p>サテライト授業1回目（赤穂市総合福祉会館）</p> <p>サテライト授業2回目（赤穂市総合福祉会館）</p>



外部講師による清掃の必要性や動作の意味の指導



生徒の実演1（ダスタークロスの使い方）



生徒の実演2（箒と塵取りセットの使い方）



サテライト授業1（ダスタークロス）



サテライト授業2（机拭き）



サテライト授業3（ゴミ集め）

協働の相手方	<p>県立上郡高等学校 健康科学類型 赤穂郡上郡町大持 207-1 【今年度は中止】</p> <p>株式会社 大健 (ビル総合管理) 姫路市南駅前町 64番地</p> <p>赤穂市総合福祉会館 赤穂市中広 267</p>
今後の展望	<p>県の技能検定のビルクリーニング検定の取組で指導した内容では足りなかった、清掃することの意味や、1つ1つの動作の意味を指導し、素早く正確に清掃を行う能力が一層求められており、私たち指導者の指導力の向上が課題である。スピードと正確さを重視した指導を教員が手本を示しながら、実践していかなければならない。そのためにも、今後も引き続き清掃会社のプロの講師にご指導いただき、生徒への質の高い指導へとつなげていきたい。</p> <p>そして、そこで学んだ技能を地域の企業や公共施設で実演していく現取組の更なる充実へと発展させていきたい。生徒一人ひとりの能力に応じて指導できる教員を増やし、生徒の意欲や達成感、満足感をアップさせるような取組を、学校全体で実施していくことが求められている。そのためにも、継続的な指導を行える体制作りが今後の課題である。</p> <p>また、校内だけの学びにせず、ご指導していただいた清掃会社の協力と、本事業の助成を受け、赤穂市総合福祉会館の清掃作業を実施することができた。日々の学習で学んだ内容を、地域の企業と連携して市内の公共施設での実践につなげることができた。その実践を通して、生徒が他者から認められたり褒められたりすることにより自己有用感を高め、働きつづげるための意欲を養うことができた。</p> <p>今後は、地域での活動場所を市内の公共施設だけでなく、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてくれば、駅やショッピングモールなどに活動を広げ、地域社会の人々と一緒に生徒の成長を図る活動を推進することで、地域の方々と一緒に「共生社会の実現」を目指していきたい。</p>
問合せ先	<p>〒678-0252 赤穂市大津1305番地</p> <p>兵庫県立赤穂特別支援学校 教頭 上田 邦成</p> <p>電話 0791-43-9266 FAX 0791-43-9527</p>

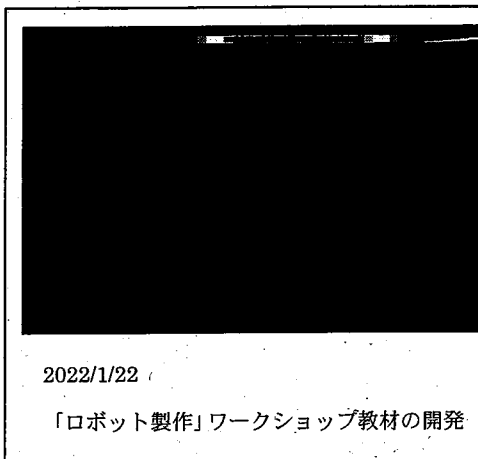
事業名： STEAM×SDGs で地域貢献

団体名： < 兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部 >

所在：赤穂郡上郡町光都3丁目11番1号

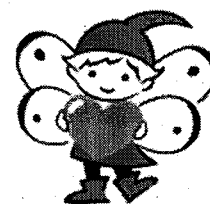
代表：校長 小倉 裕史

目的	<p>〔地域の現状〕</p> <p>1 分野横断的な活動があまり活発でない。② 本校周辺の自然環境資源の学びへの活用が不十分である。</p> <p>③ 地域社会の諸問題に対応するために、これからの社会の創り手である高校生が未来について考え、社会との連携を深めていく機会がまだまだ少ない。</p> <p>〔地域の課題〕</p> <p>1 さまざまな分野が横断的ではなく、つながりが少ない。希少生物や地域の自然環境についての啓発活動・調査・保全が不十分である。地域社会の諸問題に対応するために、これからの社会の創り手である高校生が未来について考え、社会との連携を深めていかなければならない。</p> <p>〔解決方法〕</p> <p>1 地域にむけてひらいた STEAM 教育と SDGs に関するワークショップを企画し、持続可能な社会へ向けて考え、地域活性化につなげる。② 生物多様性についての啓発活動を行い、地域の希少な生物についての継続的な観察と調査と保全活動を行う。③ 持続可能な未来へ向けて、知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す分野横断的な学びを地域とつなげ、活動する。</p>	
	内容	<p>①「実験・観察教室」を開催する。②「実験・観察教室」のための教材や標本を作製する。③西播磨地域の河川やその周辺、森林を中心として、継続的に観察・調査を行う。④希少植物の学校敷地内での保全活動を行う。⑤STEAM 教育と SDGS を結びつけたワークショップ教材の開発・研究「STEAM×SDGs でのづくり」を企画・研究</p>
地域	<p>西播磨地区全域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校周辺の河川 たつの市新宮町の角亀川の支流とその沢(新宮町角亀や新宮町二柏野、新宮町光都)の調査をする。 ・本校敷地内 絶滅危惧種(植物)を栽培する。ガーデンと屋上。 	
事業の効果	<p>STEAM 教育と SDGS を結びつけたワークショップ教材の開発・研究し、地域にむけて発信することで、学校と地域との連携を深め、学ぶことや工夫し創造することの楽しさを共有することができる。活動を通して、持続可能な社会へ向けての考えを深め、地域活性化につなげたい。</p>	
事業経過	4月～12月	ナガレホトケドジョウの調査。
	11月20日	ひょうご環境体験館リニューアル行事に出展・参加。
	通年	屋上緑化のためのコケの栽培・地域の希少植物の保護(栽培)・地域の希少動物の保護(飼育)・透明樹脂費用本の作製
	通年	ロボット制作、3D プリンター、ペットボトルロケットに関するワークショップ用教材の開発および成果をコンテストに発表(奨励賞を受賞)。



※ 掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>オプトピア 最近5年間の活動内容のポスターを展示させていただく。 西播磨県民局 ひょうご環境体験館 行事に出演・出展・参加する。 たつの市 ポスター発表 いきものの紹介など</p>
今後の展望	<p>(1) STEAM やSDGs を題材とした研究を行い、ワークショップや動画などさまざまな形で発信していきたい。 【今後の研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット制作(Arduino を用いたプログラミング学習) ・3Dプリンターの活用(3Dプリンターを用いたものづくり)。 ・ペットボトルロケットの活用(開発済みの「救助活動用ペットボトルロケット」をさらに発展させる) ・土着菌の活用に関する研究 <p>(2) 動植物の生態系だけでなく「人のくらしと野生動植物とのつながり」をテーマとして、地域で取り組む野生動植物の多様性保全の活動へと発展させたい。</p> <p>現在は本校自然科学部生物班による、生態系の調査、成果の展示発表が主な活動となっているが、地域の生物多様性という資源の発見や保全のためにできることをくらしとのかかわりについて考え、観光資源などの生態系サービスとしての利用可能性にも注目して、活動し、将来的には地域ぐるみで取り組む活動を目指していきたい。</p>
問合せ先	<p>兵庫県立大学附属高等学校 理科 那須健治 石原信頼 電話 0791-58-0722 FAX 0791-58-0723</p>



令和3年度地域づくり活動応援事業（高校生枠）事例集

（令和4年3月現在）

発行 ころも豊かな美しい西播磨推進会議

兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25

TEL:0791-58-2124/FAX:0791-58-0523

